２８年度　２学期終業式　校長講話　　H.28.12.27

『私のおばあちゃん』

今日はおばあちゃんの話をします。校長先生のおばあちゃんの話ではありません。日野小のある人のおばあちゃんの話です。「私のおばあちゃん」という作文を読みます。いつか皆さんに紹介しようと思って、１学期からずっと心にしまっておきました。

これから読みますので、最後までよーく耳を澄ませて聞いて下さい。

写真が出てきますが、それは校長先生が想像したものですから、この作文を書いた人のおばあちゃんや家族とは関係ありません。

※「私のおばあちゃん」の作文朗読

今年の５月７日に私のおばあちゃんが亡くなりました。４月２９日の朝、とつ然家の前の畑で倒れて、おばあちゃんは、自力で家族に助けを呼んだそうです。祝日だったので私も家にいたのですが、気がつきませんでした。それまでとても元気だったのに、倒れた直後からもうほんどしゃべれなくて、いびきをかいて横になっていました。私はただねているだけだと思いました。だけど、

「おばあちゃん、起きて！」

と呼びかけても全然反応しないので、おかしいと言って、お母さんが救急車を呼びました。みんなばたばたしているので、私は何をしていいのか分からなかったけどお母さんに

「お父さんに電話して、その後、救急車が来るから外に出て、家まで案内してあげて！」

と言われたので、急いで仕事場にいるお父さんに電話をして、その後５分ぐらいで救急車が来たので、私は「こっちです。」と道を教えました。隊員の人がおりてきて、すぐにいろいろ検査みたいなことをしたけれど、おばあちゃんはずっといびきをしてねむったままでした。私はおばあちゃんが助かるかどうか分からなかったので、とてもドキドキして泣いてしまいました。そして、病院に運ばれました。私達もすぐに病院へ向かい、お父さんやお母さんが先生に呼ばれて説明を聞いて、そのまま入院することになりました。

私はおばあちゃんに助かってほしかったので、近所の神社へお参りをしたり、なるべく毎日病院へお見まいに行って話しかけたりしました。けれど、おばあちゃんはやっぱりいびきをしたままねているだけでした。病院の先生に、

「頭のちょうど真ん中の血管が切れて、難しい場所で手じゅつもできないし、延命ちりょうもできる状態ではないので、あと１週間ぐらいかもしれません。」

と言われたと、お母さんに聞きました。私はとても心配で悲しくなりました。でもおばあちゃんはいつものようにねているだけのように見えたので、もしかしたら助かるかもしれないと思っていました。

おばあちゃんが入院してから毎日一人、付きそいでだれかが病院に泊まっていました。私もおばあちゃんのために何かしたいと思ったので、お父さんと話し合って一晩おばあちゃんと一緒の部屋に泊まることにしました。かんいベットという小さいベットが一つしかなくて、私が一人で病室にねて、お父さんが家族室という別の部屋に泊まることになりました。夜の病院は静かで暗くて少しこわかったけれど、

夜中に一度目を覚ましただけで、じゅくすいできました。おばあちゃんと一緒にねれたのはうれしかったけど、声をかけても話ができないのがさみしかったです。
　入院して８日目の５月７日の朝、病院から電話がかかってきて、容態が急変したというので、家族で病院に行きました。先生に、
「呼吸する力が弱くなってきているし、体に取り込む酸素の量が減ってきているので、いつどうなってもおかしくない状態です。」
と言われました。それを聞いて私はドキドキが止まらなくて、涙も止まりませんでした。たくさん大きな声でおばあちゃんに声をかけました。私達が病院について３０分くらいで、おばあちゃんは息がたまに止まるようになって、だんだん肩を持ち上げるように苦しそうに呼吸するようになりました。そのうち、すうっと息が止まりました。機械の音も止まって、すぐに先生が来て何かいろいろ確認をして、
「９時３６分、ごりん終です。」
と言われました。病室に家族全員が集まっているときに息を引き取りました。
　わたしは、まさかこんなにも早く亡くなると思っていなかったので、死んでしまったと聞いたときは、言葉では言い表せないくらい本当に悲しくてつらかったです。おばあちゃんとの思い出はたくさんあるけれど、私には一度もおこったことのないやさしいおばあちゃんでした。もっとたくさんお話をしたかったけれど、もう、それができないのが心残りです。
　お葬式の後、家族で決めごとをしました。おばあちゃんは畑仕事が好きでした。今、その畑に残っているおばあちゃんが育てた野菜や花を大切にすることです。
今年はおばあちゃんが植えておいた玉ねぎを収穫したり、じゃがいもをほったりしました。アスパラガスやとうもろこし、ミニトマトもとれました。新しくオクラやキクの花を植えたりもしました。

　おばあちゃんのようには、なかなか上手にはできないことがたくさんあるし、畑の仕事は思っていたより大変だけど、私も草取りや 水やりなど自分でできるかぎりのことはして、家族で協力して、畑を大事にしていこうと思いました。

　どうでしたか。悲しいお話でしたが、この作文の中には、私たちが生きていく上で大切なことがたくさん詰まっているような気がしたのです。
　この作文を書いた人は、大好きなおばあちゃんとお別れしましたが、その悲しみを乗り越えて、強く生きていこうとしています。おばあちゃんが大切に育てていた畑の野菜を、おばあちゃんに代わって、一生懸命育てていこうとお家の人と決めました。

　亡くなったおばあちゃんにはもう会うことが出来ないけれど、その人が一生懸命世話をして収穫したタマネギやジャガイモ、アスパラやトウモロコシにミニトマト、それから新しく植えたオクラや菊の花の中に、校長先生には、その人のおばあちゃんの命が生きているような気がして仕方ないのです。

　日野小学校をこの人のお家のように、ぬくもりのある学校にしたいと思いました。
皆さん一人ひとりの教室を、もっとぬくもりのある教室しましょう。

自分も、周りの友だちも、あたたかな気持ちになれる教室にしていきましょう。
そうすれば、日野小学校は、もっともっとぬくもりのある、あたたかな学校になるはずです。

明日から冬休みです。よい年を迎えて下さい。そして、２０１７年、平成２９年の新しい年に、また、日野小学校の皆さんと会えることを楽しみにしています。　おわります。

心があったまる
ぬくもりのある教室

ぬくもりのある 学校